



新年のごあいさつ

新十津川町長

熊田 義信



皆さま、新年明けましておめでとうございます。

令和5年の輝かしい新春を、新たな気持ちでお迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。昨年中は、皆さまの温かいご理解と、多大なご協力を賜り、常に前を向いて町政を推進することができましたことに、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、役場新庁舎に開かる全ての工事が完了し、ロビーを会場としたミニコンサートや、庁舎前スペースでの、農家の皆さんによる新鮮野菜のもぎたて市、3年ぶりとなる陶芸まつりなど、各種イベントで賑わうほか、庁舎一体型のバス待合所を拠点とした、新たな地域公共交通がスタートするなど、役場庁舎を中心に、活気にあふれる様子を見ることができました。

また、株式会社クボタ・株式会社北海道クボタとのスマート農業連携協定や、株式会社セコマとのまちづ

くり連携に関する協定、奈良県五條市との交流都市提携など、まちのさらなる発展に向けた、多種多様なつながりを持つことができ、新たな可能性に期待が高まる年でありました。そのような中、本年4月に、ふるさと公園がリニューアルオープンします。

水遊びのできる噴水施設のほか、体を存分に使って大胆に遊べる大型ネット遊具や、授乳スペースも備えたテラス型の休憩施設など、何度でも足を運びたいくなるような魅力的な空間に生まれ変わります。

さらに市街地においても、令和3年度から進めている旧新十津川駅跡地の公園化整備が10月に完成する予定です。新十津川駅の面影を残した一角を設け、新しくも思い出深い場所となるべく進めておりますので、ふるさと公園と併せて、新たな憩いの場として、楽しみにしていただければと思います。

基幹産業である農業においては、農家の皆さまをはじめ関係各位のご尽力により、作況指数106、高品質米の比率は過去最高の76・6%となるなど、質、量ともに豊作の年となりました。また、これまで農業に携わる皆さまのご協力の下、取り組んできた高品質・良食味米生産プロジェクトは、本年3月に終了し、今後は、これまで蓄積してきたデータの分析を行い、より効率的で安定的な高品質米の生産に向けて取り組んで参ります。

さて、本年は卯年であります。一説では卯年の「卯」という字は、左右に開かれた門の形からできたと言われており、開じた門が開き、「飛び出る」「飛躍する」という意味があるようです。

本町においても、長引くコロナ禍に停滞することなく、門を開いて力強く前に飛び出るうさぎのように、躍動感あふれる行政運営にまい進してまいりますので、本年もより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆さまにとって、笑顔に満ちあふれ、幸せな年でありますよう、心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

新十津川町の「卯年」

12年前 2011年・平成23年
・東北地方太平洋沖地震（本町震度3）

・新十津川町アートの森彫刻体験交流促進施設かぜのびオープン

・学習サポート事業「やまびこ」開始

24年前 1999年・平成11年
・観光キャッチコピーが「しんとつかわで深呼吸。」に決定
・新中剣道部が第10回全国選抜中学生剣道大会（佐賀県神埼町）で3位入賞
・そつち岳スキー場ロッジ新装オープン

36年前 1987年・昭和62年
・町開基百年記念スローガン・シンボルマーク決定
・中空知地域救急医療相互応援協定締結（5市5町、6医・歯・薬師会）



新年明けましておめでとうございます。

令和5年を迎え、議会を代表し謹んでごあいさつ申し上げます。

町民の皆さまにおかれましては、新年を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、平素から町議会に對しまして深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大から早いもので3年の月日が流れましたが、日本全国で未だに収まる気配が見えず、不自由な生活を強いられる状況が続きました。そのような中であって、年末にはサッカーW杯カタール大会が開催され、強豪国を撃破した日本代表の歴史的な活躍が国民に夢と感動を与えてくれました。

昨年、本町では大きな災害もなく、一年を通して天候に恵まれ、また、農業者のたゆまぬ努力により、収穫された米は、高品質米が過去最高の76・6%を占めるなど豊穡の年となりました。おいしいお米を味わうこ

とができ、大変うれしく思っているところでは、

残念ながら商工業においては、コロナ禍の影響で、従前のような経済状況には戻っていませんが、今年こそは、新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、活気が満ちあふれることを願うところです。

昨年6月と8月に、本町の市街地付近にヒグマが出没しました。ヒグマが市街地に出没することはこれまでになく、近年、札幌市をはじめ、全道各地で市街地に出没したヒグマのニュースを耳にしています。本町でも同様の状況となり、また、出没したヒグマを捕獲できなかったことから、住民生活の安全確保のため、今後も対策を講じる必要があると考えるところです。

平成31年3月から建設工事を進めてきました役場庁舎が一昨年5月に完成し、その後、バスターミナル広場や駐車場などの整備が進められ、昨年5月末で全ての工事が完了し、めでたく全体完成の運びとなりました。

た。役場庁舎前にはカバードウォークが整備され、前庭や駐車スペースも十分な広さを確保していることから、今後、イベントなどさまざまな活用が期待される場所です。

昨年6月開催の町議会定例会で、1年9カ月ぶりに夜間議会を開催し一般質問を行うことで、昼間の議会の傍聴が困難な方にも傍聴機会を提供し、議会への関心を高めてもらう取り組みを行ったところです。

今年4月には4年に一度の統一地方選挙が行われ、町議会を構成する議員も変わることにあります。町議会議員として、まちづくりに参画したいと考える方が一人でも多く現れ、より活発な議会活動が行われることを切に願います。

昨年、本町のイベント、行事は、徐々に開催できる状況になりましたが、制限を設けた上での開催となったケースが数多く見受けられました。一日も早く制約のない日常の生活に戻り、全てのイベント、行事が再開され、町民の皆さまの笑顔で会場がいっぱいになることを願ってやみません。

結びになりますが、本年が皆さまにとって、健康で、喜びと幸せに満ちた一年となりますことを心からお祈り申し上げます、年頭のごあいさついたします。

48年前 1975年・昭和50年
・新十津川町スキー協会結成
・夫婦山憩いの家浴槽落成

60年前 1963年・昭和38年
・第1回町内体育祭の開催（新十津川小学校）
・「町だより」を「広報しんとつかわ」へ名称変更

72年前 1951年・昭和26年
・新十津川農村青少年クラブ連絡協議会発足
・新十津川酒造(株)が金滴酒造(株)に改称

84年前 1939年・昭和14年
・役場新庁舎落成式
・新十津川警防団の発足

96年前 1927年・昭和2年
・西徳富郵便局電話業務開始

108年前 1915年・大正4年
・開村記念碑、忠魂碑建立
・玉置神社村社に昇格